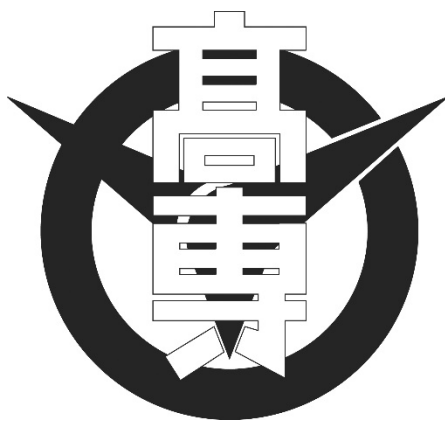


令和5年度

学生募集要項 (帰国生徒特別選抜) 入学案内

(出願書類添付)



区分	WEB出願 エントリー期間	出願書類受付期間	選抜期日	合格発表
帰国生徒 特別選抜	令和4年12月1日(木) ～令和5年1月20日(金)	令和5年1月16日(月) ～1月20日(金) (出願資格照会期限 令和4年12月16日(金))	令和5年2月12日(日)	令和5年3月2日(木)

新型コロナウイルス感染症に対する措置として、帰国者に入国後に待機することが要請される場合があります。志願者におかれては、最新の情報を確認の上、選抜期日に間に合うよう、余裕を持ってご帰国ください。

(参照先：厚生労働省・入国者健康確認センター <https://www.hco.mhlw.go.jp/>)

独立行政法人国立高等専門学校機構
徳山工業高等専門学校

〒745-8585 山口県周南市学園台
電話 (0834) 29-6233 (学生課)
FAX (0834) 29-6161 (学生課)

趣 旨

グローバル化が進展する中で、保護者の海外勤務等に伴って外国において教育を受けた者（いわゆる帰国生徒）も増えつつあります。これらの生徒は受けてきた教育が異なることもあり、そのことをもって、本校入学者選抜において、不利益となることのないよう、別に選抜を行い、入学を認めることとします。

I. 選抜の基本方針

入学者選抜の基本方針（アドミッションポリシー）は、本校の学習・教育目標（世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす）を達成できる能力を持った学生を入学させることです。具体的には次のような人を求めています。

- ・ 数学と理科の基礎学力が身につけている人
- ・ 信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・ 勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ ものづくりが好きで、社会の発展に役立ちたいと考えている人

また、本選抜においては、筆記試験で、国語、英語、数学、理科の4科目を実施し、数学と理科の基礎学力が身につけているかを評価するため、他の教科に比べ、数学を2倍、理科を1.5倍に換算します。また、他の教科では主に十分なコミュニケーション能力を身につけているかを評価します。さらに一般面接（意欲、ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えているか、信頼される技術者を狙っているかを評価）を行い、本校への適性を有すると判断した人を選抜します。

II. 募集人員

学科名	募集人員
機械電気工学科	若干名
情報電子工学科	若干名
土木建築工学科	若干名

III. 選抜の方法

区分	選抜方法
帰国生徒 特別選抜	学力検査の成績、面接及び学校長から提出された調査書を総合して行います。学力検査は、国語、数学、理科及び英語の4教科で、各教科100点、計400点満点で採点したものを、数学を2倍、理科を1.5倍に換算し、合計550点満点とします。学力検査の解答はマークシート方式です。 HB黒鉛筆でのみ 記入してください。

なお、特定の感染症に罹患、又は罹患している疑いがある者等を対象として追試験を実施します。詳細はXIII. 追試験を参照してください。

IV. 出願資格

1. 出願資格

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等に伴って外国において教育を受けた者（海外在学期間が中学校に相当する課程において通算して2年以上の者で、令和3年4月以降の帰国者）で、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 中学校、義務教育学校を卒業又は令和5年3月に卒業見込みの者
- (2) 中等教育学校前期課程及び文部科学大臣が中学校の課程と同等課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了又は令和5年3月に修了見込みの者
- (3) 外国において学校教育における9年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を卒業（修了）又は令和5年3月に卒業（修了）見込みの者

2. 資格照会

入学を志願する者は、出願資格等を確認するので、必ず令和4年12月16日（金）までに本校学生課に、電子メール（kyoumu@tokuyama.ac.jp）又は郵便により照会してください。その際、1. 出願資格のいずれに該当するのか、外国の中学校等の名称、在学期間をお知らせください。

V. 出願手続

1. 出願期間

区分	WEB出願 エントリー期間	出願書類受付期間	受付時間	留意事項
帰国 生徒 特別 選抜	令和4年12月1日(木) ～令和5年1月20日(金)	令和5年1月16日(月) ～1月20日(金) (但し、「IV 2. 資格照会」を経ること。)	土日祝日を除く 9:00～16:30	(郵送の場合) 1) 期間内必着 とする。 2) 国内の場合は簡易書留とし、国外の場合はEMS(国際スピード郵便)とする。 3) 封筒の表面に「帰国生徒特別選抜願書」と朱書する。

2. WEB出願エントリーについて

出願手続きについては、以下「3. WEB出願エントリー手順」に記載のとおりの流れになります。志願者による「WEB出願サイト」での出願事前手続き後、在籍中学校等経由で、出願に必要なすべての出願が本校に提出されたことをもって、出願手続完了となります。本校ホームページの「WEB出願エントリー説明書」を参考にエントリーしてください。

志願者は出願する前の手続きとして、「WEB出願サイト」上でユーザ登録を行う必要があります。ユーザ登録を行うことによって、「WEB出願サイト」上で、入学願書および受験票・写真票の作成・印刷などの出願事前手続を行うことができます。また、検定料の支払いも「WEB出願サイト」上で行うことになります。

3. WEB出願エントリー手順

(1) WEB出願サイトへのアクセス

本校ホームページにURLを掲載します。パソコン・スマートフォン・タブレット端末のいずれかをご利用ください。WEB出願を行う環境がない場合は在籍中学校等又は本校へご相談ください。

(2) ユーザ登録

メールアドレスをIDとして登録してください。登録を完了すると登録完了メールが送信されます。事前に「@e-shiharai.net」からのメールを受信できるように迷惑メールの設定を確認しておいてください。メールが届かない場合は、サポートセンターにお問い合わせください。

(3) 出願情報登録

WEB出願エントリー期間は令和4年12月1日から開始です。余裕を持って手続きを開始してください。

(4) 申込内容の確認

入力した内容を確認した後は「保存して中断する」を選択して入力内容を保存します。「お支払い画面へ」は選択しないでください。マイページの「申込確認」から「申込内容確認書」を出力し、保護者と中学校等に確認してもらってください。

(5) 検定料支払処理

出願内容の確認が終了後、マイページの「続きから」から「お支払い画面へ」を選択してください。検定料の納付はクレジットカード、コンビニエンスストア、金融機関ATM(ペイジー)をご利用ください。なお、納付には別途手数料がかかります(ご本人負担)。

(6) 受験票・写真票の出力

受験票は提出の必要はありません。試験当日に持参してください。写真票は写真データをアップロードして印刷するか、印刷した写真票に写真を貼付して提出してください。

(7) 出願書類提出

中学校等を経由して、持参又は郵送にて提出してください。

4. 提出先

徳山工業高等専門学校学生課教務係
〒745-8585 山口県周南市学園台 TEL0834-29-6233

5. 出願手続及び出願書類

下記①～③は、WEB出願サイト上で作成してください。④～⑤は、電子媒体様式を、本校ウェブサイトよりダウンロードし、出身学校で取りまとめて提出してください。

出願書類	留意事項
① 入学願書	「WEB出願サイト」上で必要事項を入力してください。「WEB出願サイト」上での検定料支払をもって、提出したものと取り扱いますので、紙媒体での提出は不要です。 出願後の志望学科の変更は認めません。
② 写真票	「WEB出願サイト」でダウンロードしたものを印刷し、③の受験票と切り離してください。写真をアップロードしない場合は、写真（出願前3か月以内に撮影したタテ4.5cm ヨコ3.5cmカラー写真とし、無背景・無帽かつ正面上半身のものとし）を貼付してください。
③ 受験票	「WEB出願サイト」上で必要事項を入力してください。「WEB出願サイト」上での検定料支払をもって、提出したものと取り扱いますので、紙媒体での提出は不要です。 なお、受験票は試験当日に持参していただきますので、大切に保管してください。
④ 調査書	在籍（出身）学校長が必要事項を記入してください。 「IV 1. 出願資格(3)」に該当する者は、当該学校が発行する成績証明書及び卒業（修了）証明書又は同見込証明書を提出してください。この際、成績証明書には100点法との対応表を添付してください。 卒業見込みの者にあつては、第3学年の第2学期までの記録に基づき記入してください。 様式裏面の「記入上の注意」を確認してください。 中学校卒業後一定の期間を経過し、出身中学校長が調査書を発行できない場合は、令和4年11月30日（水）までに、提出先にご連絡ください。
⑤ 海外在住状況説明書	出願者が必要事項を記入してください。
⑥ 検定料	16,500円を「WEB出願サイト」で支払処理をしてください。災害救助法適用地域における災害で被害を受けた受験生への特別措置を受ける場合、支払処理前に提出先まで問合せください。詳細については、巻末をご覧ください。

※1 ④調査書の作成が出願期間に間に合わない場合は、令和5年1月27日（金）までに提出してください。

※2 「推薦選抜」に出願し、合格内定とならなかった者が「帰国生徒特別選抜」に出願する場合は、①～④の再提出・再登録及び⑥検定料の再納入は不要です（⑤は要提出）。

注意 中等教育学校の前期課程を修了又は令和5年3月修了見込みの者は、履修証明書及び成績証明書を提出してください。

6. 調査書活用における新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた配慮事項

入学者選抜における調査書の活用については、令和2年度に中学校等で臨時休業が実施されたこと等を踏まえ、特定の入学志願者に、出席日数等の記載により不利益が生じないようにします。

7. 出願上の注意事項

(1) 出願書類に事実に反する記載があった場合は、合格させないことがあります。また、合格発表後に判明した場合は、合格を取り消すこと、入学後に判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。

(2) 受理した書類及び納付した検定料は返還しません。ただし、検定料については、次の場合は申し出により返還しますので、提出先に速やかにご連絡ください。

① WEB出願エントリーにて検定料を納付したが出願書類を提出しなかった、又は出願書類が受理されなかった場合

② 検定料を重複して納付した場合

(3) 入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用しますのであらかじめご了承ください。

① 入学後の教育・指導

② 入学金、授業料の免除申請の審査

③ 奨学金申請の審査

④ 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

⑤ 同窓会、後援会等の案内

VI. 入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して

本校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」、「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に基づき、障害等による支援ニーズのある者に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに本校学生課までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、出願期限の1か月前にあたる令和4年12月21日（水）を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、志願者、志願者の保護者及び在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1)障害者手帳の種別・等級・区分認定、2)適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3)標準化された心理検査等の結果、4)専門家の所見、5)中学校、特別支援学校中等部等入学前の支援状況に関する資料、6)本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※ 根拠資料に関しては提出の可否に関しても本校学生課までご相談ください。ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、本校で確認します。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

（お願い）

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。選抜後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なされると、修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

相談窓口 学生課教務係 (TEL)0834-29-6233
(FAX)0834-29-6161 (Mail)kyoumu@tokuyama.ac.jp

VII. 選抜日程

区分	選抜日・集合時間	時間※	科目等	検査会場
帰国生徒 特別選抜	令和5年 2月12日(日) 8:40～9:00入室	9:30～10:20	理科	本校
		10:50～11:40	英語	
		12:10～13:00	数学	
		13:50～14:40	国語	
		15:10～	面接	

※ 不測の事態が発生し、予定時刻に開始することが不相当と判断した場合は、時間を繰り下げることがあります。

※ 検査会場には室内履きは必要ありません。

VIII. 合格者の発表

合格者の発表日時、方法等は以下のとおりです。

1. 日時

令和5年3月2日（木） 午前10時

2. 方法等

合格者の受験番号を本校校内に掲示するとともに、本校ホームページに掲載します。
また、郵送（発表日発送）で在籍（出身）学校を通じて、合格者に通知します。

なお、電話等による問い合わせには、一切応じません。
本校ホームページへの掲載は、合格発表日から1週間とします。
URL <https://www2.tokuyama.ac.jp/gouhi/>

IX. 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、令和5年3月16日（木）【必着】までに、入学確約書（合格通知書と併せて送付します。）を提出してください。期限までに提出がない場合は、入学の意志がないものとして取り扱います。

X. 新入生修学指導説明会

入学者を対象に修学指導を行うための説明会を令和5年3月21日（火・祝）13時30分から（受付12時30分から）、本校で開催します。この場で、入学手続きも行うため、入学者は必ず出席してください。説明会の案内及び入学手続きは、合格通知に同封します。

なお、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、開催方法を変更することがあります。

XI. 学力検査成績の開示について

開示を希望する者は、学力検査成績開示申請書（ホームページに掲載）に必要事項を記入のうえ、受験票を添えて学生課窓口又は郵送で申請してください。開示は、受験者本人からの申請に限ります。詳細は本校ホームページを参照してください。

URL <https://www.tokuyama.ac.jp/exam/info/kaiji.html>

XII. 事務電算上の印刷書体について

入学者選抜事務では、電算処理の関係上、JIS漢字コードに則した字体で保管し、各種通知を印刷します。JISに定められていない漢字を氏名に持つ受験者については、WEB出願時にチェック項目にチェックを付けてください。また、印刷時に本当の字体と異なる場合がありますが、あらかじめご了承ください。

XIII. 追試験

1. 追試験の対象者

令和5年度入学者選抜に出願した者について、次のいずれかにあてはまる場合は、「帰国生徒特別選抜」の追試験を受験することができます。

- (1) 学校保健安全法施行規則（昭和三十三年文部省令第十八号）第十八条に定める感染症に罹患、又は罹患している疑いがあり、各選抜の本試験を受験できない者で、本試験当日の集合時間（9時）までに本校に申し出た上で、追試験の受験意志を表明した者。
- (2) (1)を除く、受験者自身の責に帰することが出来ない理由で本試験を受験できず、本試験当日の集合時間までに本校に申し出た上で、追試験の受験意志を表明した者で、校長がその申請を認めた者。

なお、追試験の受験を希望する場合は、医療機関等（場合によっては、保健所等にご相談ください）又は中学校等の学校長による証明書等を必ず当日まで、もしくは後日提出してください。追試験の受験にあたっては、再度出願や調査書等の提出、検定料を納める必要はありません。

2. 追試験の日程

区分	選抜日・集合時間	時間※	科目等	検査会場
帰国生徒 特別選抜	令和5年 2月26日(日) 8:40～9:00入室	9:30～10:20	理科	本 校
		10:50～11:40	英語	
		12:10～13:00	数学	
		13:50～14:40	国語	
		15:10～16:00	面接	

※ 不測の事態が発生し、予定時刻に開始することが不相当と判断した場合は、時間を繰り下げることがあります。

※ 検査会場には室内履きは必要ありません。

3. 合格者の発表

合格者の発表日時は以下のとおりです。なお、方法については、本試験と同様に行います。

発表日 令和5年3月2日(木) 午前10時

徳山工業高等専門学校入学案内

1. 本校の概要

本校は、「技術を愛する人物、人々から信頼される人物を育くみ、広く社会の安全と人々の幸福に寄与する」という建学の理念のもと、5年間の一貫したきめ細やかな講義、演習、実験・実習や課題発見・解決型授業などを通して、専門分野の基礎から応用までの知識や技術などに裏付けされた実践力、創造力やコミュニケーション力などを身につけるための教育を行っています。

卒業生には「準学士」の称号が与えられます。

また、平成15年度から本校における「設計情報工学」プログラムが、国際的に通用する技術者教育プログラムとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定されました。

JABEE認定に関する詳細は、本校ホームページをご覧ください。

URL <https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/jabee.html>

2. 育成しようとする技術者像

本校では「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」を育成することをめざしています。

3. 学習・教育目標並びに本科における具体的到達目標

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

○ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

○ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

○ 自らの目標を定め、外部試験を活用して英語力のステップアップを図る

(B) 「実践力のある」技術者をめざすために

(B1) 情報技術をベースに実体験を通して表現力を身につけること

○ 情報関連・実験の科目を修得する

(B2) 自主性と自立性を養うこと

○ 卒業研究の科目を修得する

(C) 「開発型」技術者をめざすために

(C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

○ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

(C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

○ 創造系の科目を修得する

○ 創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う

4. 学科案内

本校は、次の3学科から構成され、いずれも複合学科です。

各学科の概要は次のとおりです。

機械電気工学科

得意とする複合技術：メカトロ技術

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」

現代のあらゆる産業分野で活躍しているさまざまな機械は、そのほとんどがコンピュータで制御されるようになっていきます。

本学科では、このようないわゆるメカトロニクス技術に対応できる技術者の養成をめざしており、そのため、機械の分野ばかりでなく電気・制御・情報に関する知識を修得できるようにカリキュラムが編成されています。

また、実践的で応用力のある技術者を育成するため、低学年から3次元CADによる製図、コンピュータによる演習、自律型ロボットの製作などの実習、さらに各種資格試験にも関連する実践的授業が行われています。

情報電子工学科

得意とする複合技術：情報電子技術

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」

近年、コンピュータ技術の応用分野は飛躍的に拡大、多様化してきており、高度情報化社会を担う情報処理技術者が求められています。

本学科では、電子工学分野と情報工学分野をバランスよく学習することにより、コンピュータのハードウェア技術及びソフトウェア技術を身につけ、これらの技術を活かして情報処理システム、通信情報システム、コンピュータ応用機器システムなどの設計・構築、更にはインターネットなどネットワークシステムの設計・構築に従事できる高度なコンピュータシステム技術者をめざします。

土木建築工学科

得意とする複合技術：社会環境整備技術

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」

人類の生活を根底から支える土木工学と建築学を学ぶことは、持続可能な社会形成のためにも今後ますます重要となります。

本学科では、本科3年生まで土木工学と建築学を複合的に学び、4・5年生では「土木コース」と「建築コース」のいずれかを選択し、各コースの必修科目をベースに応用的な選択科目を履修していきます。土木・建築どちらのコースにおいても本学科卒業時に「測量士補」の資格が得られ、実務経験3年で「測量士」の資格が得られます。また、建築コースでは建築士受験のための指定科目を修得することで、本学科卒業後、「二級建築士」及び「一級建築士」の受験資格が得られます（ただし、一級建築士の登録には試験合格後4年の実務経験が必要です）。※令和4年度入学生から適用予定

一般科目

一般科目は、広い視野をもったすぐれた技術者を育てるため、豊かな教養を身につけること及び専門の知識や技術を習得するための学問的基礎を養うことを目的としています。1～5年の全授業時間数の約半数がこれに充てられています。低学年の授業は、一般科目が主となりますが、学年が進むにつれて一般科目は減少し専門科目が増加します。

5. 教育課程

授業科目は、各学科に共通の一般科目と学科ごとに異なる専門科目に分かれて開設されており、所要の科目を5年間で学びます。

詳しくは「教育課程」のページを参考にしてください。

6. 入学時に要する諸経費

区分		金額
入学料		84,600円
授業料（注）	前期分	117,300円
日本スポーツ振興センター掛金	年額	1,550円
学生会入会金		1,000円
学生会費	年額	4,000円
教科書代	(学科により異なる)	約85,000～ 100,000円
体育衣等		
実習服等		
製図用具, マイコンボード等		
その他		

(注) 入学時及び在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。また、高等学校等就学支援金制度の適用があります。次ページを参照してください。

入学料及び授業料の納入について

入学料は、令和5年3月20日（月）までに納めてください。なお、納入済みの入学料は返還しません。

授業料の納入方法については、合格通知に併せて後日通知します。

携帯情報機器の持込みについて

本校では令和2年度より学生個人の携帯情報機器（PC(パソコン)、タブレット端末、スマートフォン等)を授業等で使用しています。

授業科目の担当教員の指示・許可のもと、授業ノートやレポートの作成や、学業に必要な情報検索などにPC等を積極的に活用することを推奨しています。そのためのWi-Fi環境*も校内に整備されています。

なお、入学後、学科別に、指定された学年の段階で、所定の仕様を満たしたPC等を準備してください。入学確定後、学科別に、授業に必要なPC等の詳細をお知らせします。

また、感染症や災害の発生等の非常時における特例的な措置として遠隔授業を実施しますので、ご家庭においてインターネット環境を整備してください。

※Wi-Fi(ワイファイ)環境：

PC等を無線でネットワークに接続してインターネット等を利用するための環境

7. 入学料・授業料減免制度、高等学校等就学支援金制度及び奨学金制度

(1) 入学料・授業料減免制度

新入生のうち一定の基準を満たす学生は、入学料が免除もしくは徴収猶予されることがあります。

1年生から3年生までの学生で、規則で定められている特別な事情により、授業料の納付が著しく困難であると認められる者に対し、授業料が免除されることがあります。また、4年生以上の学生は高等教育の修学支援新制度により、一定の家計基準を満たし、学修意欲があると認められる者については、授業料等が免除もしくは減額されることがあります。

(2) 高等学校等就学支援金制度

全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、学生の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（1～3年生）も本制度の対象になっており、授業料の支援として保護者等の所得が判定基準未満の世帯に「就学支援金」が支給されます。

(3) 奨学金制度

学業、人物ともにすぐれ、経済的理由により修学が困難と認められる者に対して、選考のうえ日本学生支援機構や、その他の団体などから奨学金が貸与又は給付されます。

① 日本学生支援機構の奨学生として採用を希望する者は、入学後に出願することになります。詳細は日本学生支援機構のホームページをご覧ください。

② その他の奨学金制度として、「山口県ひとつづくり財団」や各自治体などのものがあります。

8. 学寮

(1) 施設

冷暖房および全室Wi-Fi完備の学寮「高城寮」（男子定員120名、女子定員31名（外国人留学生を含む））があり、「自立の志が高い人」を受け入れています。充実した生活環境の中で勉学や課外活動にも集中でき、時間を有効に活用した学生生活を過ごすことができます。

(2) 入寮

入寮は書類（場合によっては面接）選考により、「入寮の目的、向学意欲、適性」を確認した上で受け入れを許可しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、定員を100名程度まで減少させ全室一人部屋で運用する場合があります。その場合の入寮選考は上記の確認事項に加えて、学年・通学時間などを考慮します。

(3) 経費（令和4年度の場合）

寄宿料	月額	800円（1人部屋）、700円（2人部屋）
食費（1日3食）	月額	約38,300円
寮費（光熱水費等）	月額	7,000円
空調機維持管理費	半期	3,000円
入寮費	入寮時	1,000円
寮生会費	年額	1,500円

9. 学生生活

本校では「自分で考え、行動し、しかも自分の行為に責任をもつ」という自主性の育成に教育の重点をおいています。

(1) 制服について

1～3年生は定められた制服を着用しなければなりません。4年生以上は制服以外の服装で通学してよいが、この場合の服装は本校の学生としての品位をそこなわないものでなければなりません。

(2) 通学について

自転車通学については、許可制になっています。3年生以下の学生は、自動車、自動二輪車及び原動機付自転車（原付バイク）を運転して通学することを原則として禁止しています。また、原則として道路交通法に規定する運転免許の取得を禁止しています。

ただし、4年生以上の学生については、一定の条件を満たした場合にバイク等の通学を許可しています。

10. 構内施設・課外活動

図書館、福祉厚生センター、合宿研修施設、学生食堂のほか、野球場、陸上競技場、体育館、武道場、テニスコート、プールなどの体育関係施設があります。

クラブ（同好会）の詳細については、本校ホームページをご覧ください。

11. 卒業後の進路

年度 学科	元		2		3	
	就職	進学	就職	進学	就職	進学
機械電気工学科	23	14(8)	22	16(9)	17	15(7)
情報電子工学科	22	19(14)	24	13(6)	29	12(5)
土木建築工学科	25	15(8)	23	20(11)	26	17(8)

() は本校専攻科への進学者数で内数

(1) 就職状況

過去3年の就職先は次のとおりです。

[機械電気工学科]

アイリスオーヤマ、アシックス、宇部興産機械、NOK、NTT東日本グループ会社、NTTファシリティーズ中国、ENEOSホールディングス、川崎重工業、岐山化工機、協和発酵バイオ、クボタ、鋼鉄工業、JXTGエネルギー、シチズン時計マニュファクチャリング、新明和工業、水ing、西部石油、ソニー・太陽、ダイキン工業、武田薬品工業、東海旅客鉄道、東ソー、東ソー・ハイテック、東洋製罐、トクヤマ、日鉄ステンレス、日本ゼオン、HIVEC、パナソニックインダストリアルソリューションズ、パナソニックオートモーティブ、日立交通テクノロジー、日立産業制御ソリューションズ、日立ハイテック、ヒロテック、深江化成、不二輸送機工業、三菱ケミカルエンジニアリング、三菱重工業、三菱電機エンジニアリング、メタウォーター

[情報電子工学科]

アイテック阪急阪神、アスパーク、アトラス情報サービス、宇部情報システム、NSウエスト、エヌ・ティ・ティ エムイー、NTTコムソリューションズ、NTTデータMSE、NTTデータフロンティア、ENEOS、エフ・ケー・シー、オブティム、神田通信機、九州NSソリューションズ、グリー、KDDIエンジニアリング、コベルコソフトサービス、サントリービール、GMOインターネット、新立電機、ソニーLSIデザイン、中国電力、中国電力ネットワーク、テルモ山口、東海旅客鉄道、東京ガス、東ソー情報システム、東ソー・ハイテック、東洋インキSCホールディングス、トクヤマ、トクヤマ情報サービス、トヨタシステムズ、ニコン、日本精蠟、日本放送協会、ネクストウェア、ハイマックス、パナソニックコネクティッドソリューションズ、パナソニックシステムソリューションズ ジャパン、日立ハイテック、日立ビルシステム、日立プラントメカニクス、Phone Appli、富士通、富士通Japan、富士通ゼネラル、富士電機、三菱重工業、三菱電機エンジニアリング、ラック、山口県警察

[土木建築工学科]

I. D. Works、アイリスオーヤマ、INPEX、宇部建設コンサルタント、宇部興産、NHKテクノロジーズ、エヌ・ティ・ティ・インフラネット、NTTファシリティーズ中国、ENEOS、大林組、オリエンタルコンサルタンツ、鹿島クレス、車田建築設計事務所、計測リサーチコンサルタント、五洋建設、笹戸建築事務所、シーエム・エンジニアリング、ショーボンド建設、大日本土木、

大和リース，竹中工務店，巽設計コンサルタント，中国電力，中電技術コンサルタント，東栄住宅，東海旅客鉄道，東京ガス，東京都下水道サービス，東ソー，トクヤマ，西日本高速道路，西日本高速道路エンジニアリング中国，西日本旅客鉄道，日本空港テクノ，三井住友建設，メタウォーター，山口県，洋林建設，LIXIL，若築建設，和田材木店，国土交通省中国地方整備局，広島市役所，岩国市役所，周南市役所，防府市役所

(2) 進学状況

卒業後さらに勉学を続けたい人は，大学(3年次編入学)又は高専の専攻科(修業年限2年)に進学することができます。

①大学編入学

高専の卒業生を数多く受け入れる長岡，豊橋両技術科学大学をはじめ，多数の国公立大学が編入学制度を実施しています。

過去3年の編入学先は次のとおりです。

[機械電気工学科]

大阪大学，岡山大学，金沢大学，九州大学，京都工芸繊維大学，国立障害者リハビリテーションセンター学院，佐賀大学，千葉大学，東北大学，豊橋技術科学大学，北海道大学，横浜国立大学

[情報電子工学科]

秋田大学，九州工業大学，九州大学，千葉大学，筑波大学，東京大学，豊橋技術科学大学，専門学校HAL，広島市立大学，広島コンピュータ専門学校，北海道大学，山口大学

[土木建築工学科]

京都工芸繊維大学，近畿大学，熊本大学，島根大学，千葉大学，東京工業大学，東京大学，東京都立大学，豊橋技術科学大学，長岡技術科学大学，バンタンクリエイターアカデミー，広島大学，山口大学，横浜国立大学，立命館大学

②高専の専攻科

専攻科は現在，ほとんどの高専に設置されており，本校にも機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，環境建設工学専攻からなる専攻科が設置されています。専攻科を修了し，一定の要件を満たした者には，国の機関である大学改革支援・学位授与機構から「学士」の学位が授与されます。

本校専攻科の過去3年の就職先は次のとおりです。

[機械制御工学専攻]

SGシステム，オムロン京都太陽，京都製作所，ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ，ダイハツ工業，テルモ，奈良機械製作所，日本飛行機，パナソニックコネクティッドソリューションズ，日立交通テクノロジー，日立ハイテク，三菱電機エンジニアリング

[情報電子工学専攻]

オリンパス，九州NSソリューションズ，システナ，JBCC，セイコーエプソン，東海旅客鉄道，東ソー情報システム，東ソー・ハイテック，トクヤマ，富士通，三菱電機エンジニアリング，ヤマハ

[環境建設工学専攻]

あおみ建設，エム・エムブリッジ，極東興和，ショーボンド建設，巽設計コンサルタント，西日本高速道路エンジニアリング中国，日本工営，前田道路，ラックランド，下松市役所，周南市役所

本校専攻科を終了した者は大学院へ進学する者もいます。過去3年の進学先は次のとおりです。

[機械制御工学専攻]

岡山大学大学院，九州工業大学大学院，九州大学大学院，慶應義塾大学大学院，東京都立大学

大学院，奈良先端科学技術大学院大学，早稲田大学大学院

[情報電子工学専攻]

静岡大学大学院，東京大学大学院，東京都立大学大学院，奈良先端科学技術大学院大学，広島大学大学院，早稲田大学大学院，名古屋大学大学院

[環境建設工学専攻]

東京工業大学大学院，東京大学大学院，豊橋技術科学大学大学院

教育課程(令和4年度の教育課程に基づくものであり、今後、改正する場合があります。)

一般科目

機械電気工学科

※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語総合Ⅰ	4	4					
国語総合Ⅱ	4		2	2			
歴史	4	2	2				
倫理	2		2				
政治・経済学	2	2					
哲学	2			2			
数学ⅠA	3	3					
数学ⅠB	3	3					
数学ⅡA	3		3				
数学ⅡB	3		3				
数学ⅢA	2			2			
数学ⅢB	2			2			
※微分積分学Ⅰ	1				1		
※微分積分学Ⅱ	1				1		
※ベクトル解析	1				1		ME, IE
※線形代数	1					1	CA
ライサイエンス・アースサイエンス	2	2					
物理基礎	1	1					
物理Ⅰ	2		2				
物理Ⅱ	2			2			
※応用物理	2				2		
化学基礎	2	2					
化学Ⅰ	1		1				
化学Ⅱ	1		1				
体育	8	2	2	2	2		
保健	1	1					
芸術	2		2				
基礎英語	3	3					
総合英語Ⅰ	4		4				
総合英語ⅡR	2			2			
総合英語ⅡW	1			1			
総合英語演習Ⅰ	2				2		
総合英語演習Ⅱ	1					1	
英会話	3		1	1	1		
履修単位計	77	25	25	16	10	9	2
							ME, IE CA
人文・社会	1				1		
日本語コミュニケーション	1				1		
中国文学	1				1		
歴史	1				1		
心理学	1				1		
人文社会特講	2				1	1	
外国語	3				2	1	
ドイツ語	3				2	1	
英語特別演習	1					1	
中国語	3				2	1	
自然科学	1				1		
※生物学	1				1		
※物理化学	1				1		
※自然科学特講	1				1		
※応用解析学概論	3				3		
※応用数物演習	1					1	
開設単位計	20				13	7	
履修単位計	5					3	2
履修単位合計	82	25	25	16	13	3	4
							ME, IE CA
特別活動	3	1	1	1			

ME: 機械電気工学科 IE: 情報電子工学科 CA: 土木建築工学科

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工作実習Ⅰ	2	2					
工作実習Ⅱ	2		2				
工学実験Ⅰ	1			1			
工学セミナー	1				1		
電気回路Ⅰ	1			1			
電子回路Ⅰ	2			2			
※電磁気学	2				2		
材料力学Ⅰ	1			1			
水力学Ⅰ	1			1			
※熱力学	2				2		
※工学実験Ⅱ	3				3		
卒業研究	8					8	
履修単位計	26	2	2	6	8	8	
機械の基礎	1	1					
電気の基礎	1	1					
技術発達史論	1	1					
知的財産権	1			1			
※技術者倫理	1					1	
工業英語Ⅰ	1			1			
※工業英語Ⅱ	1					1	
※関数論	1				1		
※確率・統計	1				1		
※フーリエ変換	1					1	
コンピュータ基礎	1	1					
プログラミング基礎	2		2				
プログラミング応用	1			1			
※数値計算	1					1	
※電気回路Ⅱ	1				1		
※電子回路Ⅱ	1				1		
アクチュエータ	1			1			
※制御工学Ⅰ	1				1		
※制御工学Ⅱ	2					2	
※計測工学	2					2	
加工工学	1		1				
機構工学	1			1			
工業力学	1			1			
※機械力学Ⅰ	1				1		
※機械力学Ⅱ	1					1	
※計算力学	1					1	
材料学Ⅰ	2			2			
※材料学Ⅱ	1				1		
※材料力学Ⅱ	2				2		
※弾塑性論	1					1	
※水力学Ⅱ	1				1		
※熱機関	1					1	
※機械設計論Ⅰ	2				2		
※機械設計論Ⅱ	1					1	
基礎設計製図Ⅰ	2	2					
基礎設計製図Ⅱ	2		2				
設計製図Ⅰ	1			1			
※設計製図Ⅱ	1				1		
※設計製図Ⅲ	1					1	
創造演習Ⅰ	1	1					
創造演習Ⅱ	1			1			
創造製作Ⅰ	2		2				
コンピュータ制御	2			2			
※創造製作Ⅱ	2					2	
履修単位計	55	7	7	12	15	14	
総合実地演習Ⅰ	1		1				
総合実地演習Ⅱ	2		2				
校外実習Ⅰ	1	1				1	
校外実習Ⅱ	2					2	
※環境リサイクル論	1					1	
※一般物理	1					1	
※機能材料	1					1	
※ターボ機械	1					1	
※伝熱工学	1					1	
※有限要素法	1					1	
※流体力学	1					1	
※ベンチャービジネス論	1					1	
特別講義Ⅰ	1					1	
特別講義Ⅱ	1					1	
開設単位計	16		3		3	10	
履修単位計	5						5
履修単位合計	86	9	9	18	23	27	
一般科目履修単位合計	82	25	25	16	13	3	
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	23	27	
合計	168	34	34	34	36	30	

情報電子工学科

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
基礎電気回路	2	2					卒業までに修得
基礎コンピュータ工学	2	2					
コンピュータの基礎知識	1	1					
基礎プログラミングⅠ	1	1					
基礎プログラミングⅡ	1	1					
基礎プログラミング演習	1	1					
電子工学実験	4			4			
※コンピュータシステム実験	4				4		
※創造演習	1				1		
※創造製	1					1	
※電子情報通信システム実験	2					2	
卒業研究	10					10	
履修単位計	30	8		4	5	13	
電気数学	1		1				卒業までに修得
集合と論理	1		1				
知的財産論	1			1			
情報数学	2			2			
※フーリエ・ラプラス変換	1				1		
確率	1			1			
※統計学	1				1		
※情報理論	2				2		
※デジタル信号処理	1					1	
電磁気学	2				2		
※数値解析	1					1	
※情報システムと技術者倫理	1				1		
電気回路	2		2				
計測工学	2			2			
アナログ回路	2			2			
デジタル回路	2			2			
※情報通信工学	2				2		
※デジタル回路応用	1					1	
コンピュータ演習	1	1					
コンピュータ工学	2		2				
プログラミング	2		2				
プログラミング言語	1		1				
コンピュータシステム概論	1			1			
アルゴリズムとデータ構造	2			2			
システムプログラミングⅠ	1			1			
※システムプログラミングⅡ	1				1		
コンピュータキテクチャ	2			2			
※ソフトウェア工学	2				2		
※データベース	2				2		
※オペレーティングシステムⅠ	1				1		
※オペレーティングシステムⅡ	1					1	
※ネットワークキテクチャ	2					2	
工学セミナー	1				1		
※英語講読	2					2	
特別講義	1					1	
履修単位計	51	1	9	14	19	8	
※集積回路設計Ⅰ	2					2	専修科履修単位18単位、 TU・AC2
※集積回路設計Ⅱ	1					1	
※画像工学	2					2	
※言語処理	2					2	
※ワグゼ外指向プログラミング	1					1	
※コンピュータグラフィックス	2					2	
※知的情報処理	2					2	
※システム数理工学	2					2	
校外実習	1	1			1		
校外実習	2				2		
開設単位計	17				3	14	
履修単位計	5					5	
履修単位合計	86	9	9	18	24	26	
一般科目履修単位合計	82	25	25	16	13	3	
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	24	26	
合計	168	34	34	34	37	29	

土木建築工学科

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
測量実習	4		2	2			3学年までに修得
工学デザイン基礎Ⅰ	2	2					
工学デザイン基礎Ⅱ	2		2				
工学デザイン基礎Ⅲ	2			2			
基礎工学実験	2				2		
力と変形	1	1					
構造力学基礎	4		2	2			
※環境工学	1				1		
※技術者倫理	1					1	
卒業研究	10					10	
履修単位計	29	3	6	8	1	11	
※土木工学デザインⅠ	2				2		いずれかを卒業までに修得
※建築工学デザインⅠ	2					2	
※土木工学デザインⅡ	2					2	いずれかを卒業までに修得
※建築工学デザインⅡ	2				1	1	
※土木創造演習	2					1	いずれかを卒業までに修得
※建築創造演習	2				1	1	
※土木工学実験Ⅰ	1				1		いずれかを卒業までに修得
※建築工学実験Ⅰ	1					1	
※土木工学実験Ⅱ	1					1	いずれかを卒業までに修得
※建築工学実験Ⅱ	1					1	
土木CAD応用	1				1		いずれかを卒業までに修得
建築CAD応用	1					1	
開設単位計	18				10	8	
履修単位計	9				5	4	
※構造力学	2				2		卒業までに修得
建築一般構造	1			1			
※鉄筋コンクリート工学	4				4		
鋼構造学Ⅰ	1				1		
地盤工学基礎	2			2			
水理学基礎	2			2			
建設材料	1	1					
※建設先端材料	1					1	
西洋建築史	1			1			
建築デザイン概論	1	1					
建築計画Ⅰ	2			2			
都市計画	2				2		
※建設マネジメント	1					1	
情報処理	5	2	1	2			
CAD基礎	1				1		
※確率・統計	1				1		
測量学Ⅰ	2	2					
測量学Ⅱ	2		2				
履修単位計	32	6	3	10	11	2	
プレストレストコンクリート工学	1					1	卒業までに修得
※鋼構造学Ⅱ	1					1	
※メンテナンス工学	1					1	
振動と耐震	1					1	
道路工学Ⅰ	1				1		
※道路工学Ⅱ	1					1	
地盤工学	2				2		
※基礎構造学	1					1	
水理学	2				2		
※河海工学Ⅰ	1				1		
※河海工学Ⅱ	1					1	
※水環境工学	1					1	
※火災学	1					1	
※建築材料	1					1	
※建築構造設計	2					2	
※建築計画Ⅱ	2				2		
※日本建築史	1					1	
※近代建築史	1					1	
※建築環境工学	1				1		
※建築環境工学演習	1					1	
※建築設備	2					2	
※土木法規	1					1	
※建築法規	1					1	
※土木施工法	1					1	
※建築施工法	1				1		
※応用プログラミング	1					1	
測量学特論	1					1	
特別講義	1					1	
工学セミナー	1				1		
校外実習	1	1				1	
校外実習	2				2		
開設単位計	37				16	21	
履修単位計	16					7	
履修単位合計	86	9	9	18	24	26	
一般科目履修単位合計	82	25	25	16	12	4	
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	24	26	
合計	168	34	34	34	36	30	

災害救助法適用地域における災害で被害を受けた受験生への特別措置について

入学志願者のその主たる家計支持者が令和4年度に災害救助法適用地域に居住していて被災された場合には、検定料免除申請書に必要書類を添えて提出することで入学検定料が免除されます。

詳細は高専機構ホームページを参照してください。

URL <https://www.kosen-k.go.jp/exam/admissions/>